

ちゅうおう

《長崎空港における動物検疫キャンペーン（H31.3.25）》

▶ 第187号 2019年



検疫探知犬「タンク」号 長崎出張中



探知すると座ってお知らせ



入国者に対する広報キャンペーン<アフリカ豚コレラ発生中！>



長崎県県央振興局農林部（中央家畜保健衛生所）

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331(代)（休日、夜間も携帯電話に転送されます）

FAX 0957-25-1332

衛生課：s34500@pref.nagasaki.lg.jp

E-mail 防疫課：s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課：s34520@pref.nagasaki.lg.jp

HP：http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html



目次

- P.2・・・ 豚コレラ、アフリカ豚コレラに最大限の警戒を！
- P.3・・・ 越境性動物疾病の発生状況について
- P.4・・・ 平成30年凍結精液利用状況について
長崎県但馬系種雄牛『美津洋』の誕生について
- P.5・・・ 県外導入牛はヨーネ病の検査が必要です
県内の平成30年度病性鑑定実施状況
水際検疫強化中！
- P.6・・・ 暑熱対策を万全に！！
職員紹介
平成31年度長崎県家畜保健衛生業績発表会開催案内

豚コレラ、アフリカ豚コレラに最大限の警戒を！

<豚コレラ>

平成30年9月9日、岐阜県で、国内では26年ぶりに発生が確認された豚コレラですが、その後、平成31年4月22日までに22例（48農場、3と畜場）の発生が確認されています。

現在、岐阜県と愛知県では、ウイルスを媒介する野生いのししに経口ワクチンを投与することで、野生いのししへの感染を防止し、豚への感染を防御するという対策を行っています。一日も早い対策の効果が期待されるところです。

<アフリカ豚コレラ>

平成30年8月3日、中国遼寧省の養豚場でアジアで初めて発生が確認されたアフリカ豚コレラですが、その後、モンゴル、ベトナム、カンボジアでも発生が確認され、アジア地域での感染が拡大しています。

また、国内の空港では、中国からの旅行客が携行し、輸入が認められなかった豚肉製品からアフリカ豚コレラウイルス遺伝子が確認される事例が続いていましたが、今年1月12日に中部空港で回収された豚肉製品から生きたウイルスが分離されました。これは、感染力を持つアフリカ豚コレラウイルスが、我が国の空港まで到達していたということになります。

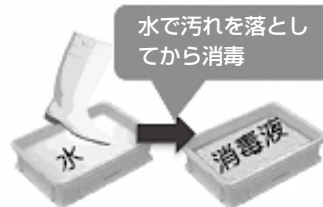
豚コレラの発生により、養豚業界は多大な被害を被っているところですが、さらにアフリカ豚コレラが発生した場合、畜産業界への影響は甚大なものになります。生産者の皆様におかれましては、既にウイルスが国内に侵入しているものと考え、危機意識を持って、発生防止対策に万全を期していただきますようお願いいたします。

- アフリカ豚コレラ、豚コレラ及び口蹄疫等の発生国への渡航は可能な限り自粛してください。
- 衛生管理区域を明確にし、出入口での車両等の消毒の励行や野生動物の侵入防止を図る等、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。
- 生肉を含み、又は含む可能性がある飼料を給与する場合は、加熱処理（摂氏70度以上で30分間以上、又は摂氏80度以上で3分間以上）が適切に行われたものを用いてください。
- 「発熱、元気消失、食欲減退、結膜炎」又は「流死産」が一定期間（概ね1週間程度）に増加している等、飼養豚に特定症状が確認された場合は、確実に届出るようお願いいたします。

衛生管理を徹底しましょう



関係者以外の農場
への立入を禁止



農場に出入りする際には、
消毒を実施



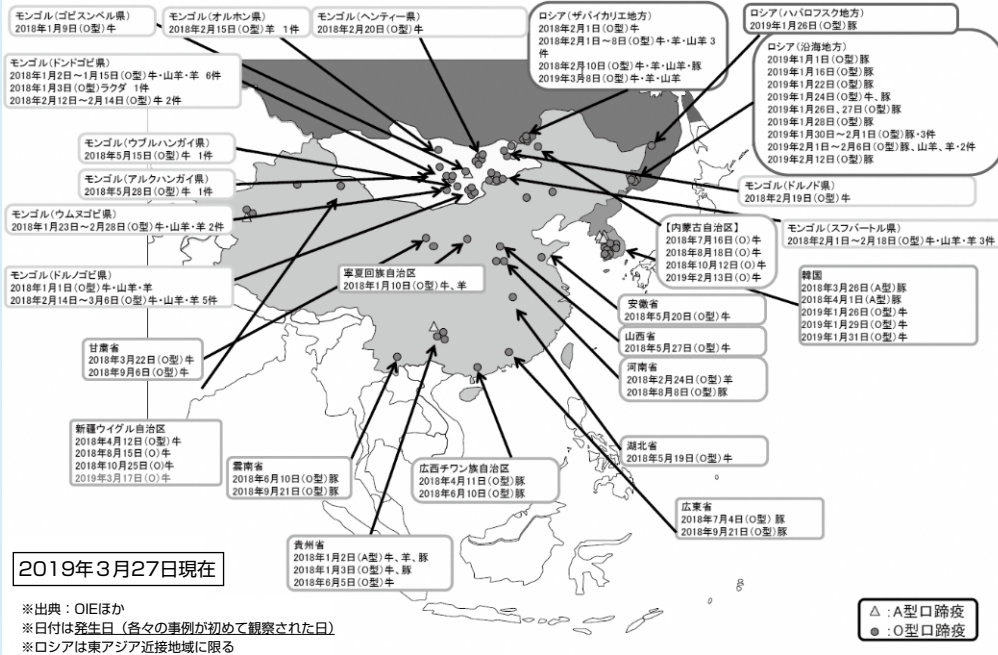
飼料に生肉を含む又は含む
可能性がある場合は、
十分に加熱処理

越境性動物疾病の発生状況について

近隣諸国で、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の越境性動物疾病が続発しています。

【口蹄疫の発生状況】

＜東アジアにおける口蹄疫の発生状況＞（平成28年以降）

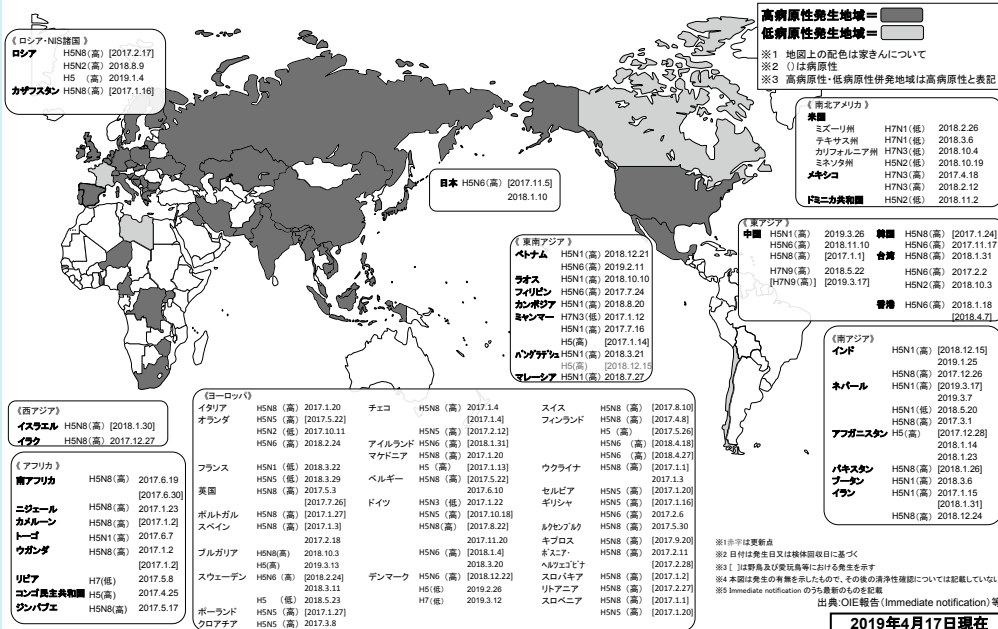


平成22年の宮崎県での発生以後、国内での口蹄疫発生はありませんが、周辺諸国では発生が継続しており、昨年度も韓国、中国、モンゴル、ロシアで発生が確認されています。

本病を疑う症状が認められた場合は、直ちに当所まで通報をお願いします。

【高病原性鳥インフルエンザの発生状況】

家きんの高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況（2017年以降）



昨年度、国内での高病原性鳥インフルエンザの発生は、家きん・野鳥ともにありませんでしたが、中国や台湾といった近隣諸国のみならず、ヨーロッパ等においても発生が継続しており、依然として我が国への侵入リスクは高い状態にあります。

これらの越境性動物疾病の国内における流行は、近隣諸国での流行に続いて発生する傾向にあります。飼養者の皆様は、病原体を飼養施設内に侵入させないように、引き続き飼養衛生管理基準遵守の徹底と、異常畜の早期発見・通報に万全を期していただきますようお願いいたします。

平成30年凍結精液利用状況について

中央家畜保健衛生所管内の平成30年凍結精液利用状況を集計しました。

種雄牛別利用状況ベスト10では、表に示すように上位7頭が長崎県有種雄牛で、8割以上のシェアを占めていました。

トップの金太郎3は4年連続の1位、弁慶3はシェア7.2%から18%と2倍以上アップし、前年4位から2位に浮上、勝忠勝は初登場で堂々の4位、また、平成29年12月に死亡した平茂晴は3位で、依然として高い利用率となっています。注目の隼勝忠は5位にランクインするという結果となりました。

<種雄牛別利用状況>

順位	名号	変動 (昨年の順位)	所有者	受精回数	シェア (%)
1	金太郎3	→ (1)	長崎県 (県有)	931	21.3
2	弁慶3	↑ (4)	長崎県 (県有)	784	17.9
3	平茂晴	↓ (2)	長崎県 (県有)	596	13.6
4	勝忠勝	(初登場)	長崎県 (県有)	423	9.7
5	隼勝忠	↑ (ランク外)	長崎県 (県有)	380	8.7
6	勝乃幸	↓ (3)	長崎県 (県有)	272	6.2
7	百合幸	↓ (5)	長崎県 (県有)	180	4.1
8	美国桜	↓ (7)	鹿児島県	157	3.6
9	福華1	↓ (6)	鹿児島県	94	2.1
10	幸紀雄	↑ (17)	鹿児島県	60	1.4

<所有者別利用状況>

所有者	受精回数	シェア (%)
長崎県 (県有)	3,700	84.6
長崎県 (個人)	10	0.2
鹿児島県	556	12.7
事業団	60	1.4
鳥取県	25	0.6
北海道	20	0.5
山形県	3	0.1
計	4,374	100.0

長崎県但馬系種雄牛『美津洋』の誕生について

「美津洋」号は、全国的に高い知名度を誇る種雄牛「茂洋」を父に持つ、但馬系の種雄牛です。現場後代検定成績では、脂肪交雑がBMSNo.9.7と、長崎県但馬系種雄牛で歴代1位（長崎県全体では歴代2位）となる好成績を収めました。

「美津洋」号の誕生により、県産種雄牛における但馬系、気高系、糸桜系の3系統ラインナップが強化され、今後の「長崎和牛」の飛躍的な品質向上が期待されます。



現場後代検定成績（去勢牛）

区分	脂肪交雑 (BMSNo.)	枝肉重量 (kg)	0-1芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	上物率(%)	検定頭数
美津洋	9.7	524.3	70.6	8.3	100.0	10
県平均	7.0	500.3	60.5	8.0	82.0	—

※県平均：平成29年次長崎県産産子の肥育成績（去勢）平均値
(肉用牛改良センター)

「美津洋」号
平成26年1月7日生
<血統>茂洋－美津福－平茂勝

県外導入牛はヨーネ病の検査が必要です

ヨーネ病は、牛がヨーネ菌に感染することにより、頑固な下痢、乳量減少、消瘦を呈する病気です。有効なワクチンや治療法はなく、家畜伝染病予防法に基づき、感染牛は殺処分されます。

本病は感染から発症まで通常1年あるいはそれ以上という長い期間を要するため、見かけ上健康な感染牛を気づかずに導入し、農場に感染を広げてしまう恐れがあります。また、本病は一旦農場に侵入すると、清浄化までに長期間を要する非常に厄介な疾病です。

本県では「長崎県ヨーネ病防疫対策要領」に基づき、県外からの導入牛はヨーネ病検査を実施することで、農場への侵入防止を図っています。牛を導入する際は事前に当所までご連絡をお願いします。

県内の平成30年度病性鑑定実施状況

平成30年度は、乳用牛18件、肉用牛160件、豚147件、採卵鶏71件、肉用鶏28件、その他17件の合計441件の検査課への精密検査依頼がありました。主な疾病は下表のとおりでした。

日々の観察を徹底し、異状があれば家保又は獣医師へ相談のうえ、必要に応じて病性鑑定を受けるように勤めてください。

疾病の原因究明は、的確な治療や発生予防対策につながります。

畜種	疾病名(件数)
乳用牛	牛RSウイルス病(1)、牛パステラ(マニミア)症(1)
肉用牛	牛大腸菌症(1)、牛パステラ(マニミア)症(1)、牛カストリウム・パ-フリゲータ感染症(4)、牛マイコプラズマ肺炎(2)、牛コクシジウム病(2)、牛RSウイルス病(3)、牛呼吸器病症状候群(5)、牛のびウイルス病(3)、牛アデノウイルス病(1)、地方病性牛白血病(2)、大脳皮質壊死症(4)
豚	豚胸膜肺炎(5)、浮腫病(10)、豚大腸菌症(5)、豚パステラ症(1)、カビ症(1)、豚レジオネラ症(2)、豚マイコプラズマ病(2)、ヘモフィルス・パリスレンス感染症(2)、豚増殖性腸炎(3)、豚カストリウム・パ-フリゲータ感染症(4)、豚インフルエンザ(2)、豚繁殖・呼吸障害症状候群(4)、マルパリーハート病(1)、血小板減少性紫斑病(1)
採卵鶏	鶏痘(1)、マック病(1)
肉用鶏	鶏大腸菌症(5)、鶏封入体肝炎(2)、鶏パステラ症(1)、鶏ブドウ球菌症(1)、アサリギウイルス症(1)、伝染性気管支炎(3)、鶏痘(1)、マック病(1)、鶏コクシジウム病(2)、尿酸塩沈着症(1)、尿石症(1)

水際検疫強化中!

県内では、長崎空港、長崎港、佐世保港、厳原港及び比田勝港において、検査証明書がない肉製品を日本へ持ち込まないように、入国者に対し農林水産省動物検疫所による検疫活動が実施されています。今回、福岡空港に配備されている検疫探知犬「タンク」号が長崎空港に出張し、探知活動を実施しました(表紙参照)。特殊な訓練を受けた検疫探知犬は、旅客の手荷物の中の肉製品等を嗅ぎ分け、国内への病原体侵入防止に貢献しています。

また、入国者に対する広報パンフレット等の配布を行い、動物検疫の広報キャンペーンを行いました。今回は、中央家畜保健衛生所の職員も参加して、家畜伝染病発生国からは肉製品等を持ち込めないことを周知しました。

県内の畜産業を守るため、国と県が協力して、水際検疫を強化しています。

暑熱対策を万全に!!

春を過ぎたら、すぐに暑い夏がやってきます。夏の暑さは、家畜や家きんにストレスを与え、採食量の減退や受胎率・産卵率の低下などを引き起こし、生産性を低下させるだけでなく、最悪の場合、熱中症を発症して大きな事故につながることもあります。大切な家畜・家きんを守るために、暑熱対策を万全にし、夏を迎えましょう!

扇風機等は埃やゴミが付着していると送風効果が大幅に低下します。夏を迎える前に、点検、掃除を行いましょう。また、採食量を維持するために、飼料給与時間を早朝や夜中にすること、また給与回数を増やして1日の採食量を維持することも効果的です。

<暑熱対策の一例>



屋根への消石灰の散布



グリーンカーテン



換気扇による送風

写真:「家畜の生産性を維持・向上する暑熱対策に取り組みましょう!!」(公益社団法人中央畜産会)より

職員紹介

所長



岩永 俊一

〔 県央振興局
農林部副部長 〕

衛生課



衛生課長
清浦 邦彦

<指導班>



係長
吉野 文彦



主任技師
寺山 好美



非常勤
久松 美晴

防疫課



防疫課長
久住呂 毅

<肉牛酪農班>



専門幹
島田 善成



係長 (副参事)
大曲 祥弘



係長
岩永 政弘



獣医師
西武 直美

<養豚養鶏班>



係長
溝口 泰正



主任技師
山脇 義成



獣医師
藤岡 芳幸

検査課



検査課長
山本 賢一

<病性鑑定班>



係長
鈴田 史子



係長
酒井 芳子



係長
横山 竜太



主任技師
浦川 了



主任技師
秦 祐介



主任技師
山口 雅之

長崎県畜産協会 中央支部
田浦 はづき

お世話になりました

- ・樽田 嘉洋 → 県南家畜保健衛生所 防疫課長
- ・森田 光太郎 → 畜産課 家畜衛生班 課長補佐
- ・殿川 剛 → 県北家畜保健衛生所 防疫課長
- ・井上 大輔 → 県南家畜保健衛生所 防疫課 係長
- ・早島 彬美 → 県南家畜保健衛生所 衛生課 主任技師

<開催案内>

- 平成 31 年度長崎県家畜保健衛生
業績発表会
- 日時:平成 31 年 5 月 30 日 (木)
9:30 ~ 17:00
- 場所:長崎県庁 1 階大会議室
(長崎市尾上町 3 番 1 号)
- 皆様の来場をお待ちしています。